

## FT8に思う

JJ1SXA/池

ノーベル賞学者 Joseph Taylor 博士・K1JT によって主に EME 通信用に開発された JT44、Taylor 博士は、天体物理学が専門で 1993 年に「重力研究の新しい可能性を開いた「新型連星パルサーの発見」の共同研究の功績によりノーベル物理学賞を受賞していますが、この天体物理学の研究で培った技術を微弱信号による通信方法の開発に適用したのです。

JT44 の後、(1)FSK441(高速の流星痕反射通信用)、(2)JT6M(50MHz用の流星または電離層の散乱通信用)、(3)JT65(EME および対流圏散乱通信向け)の 3 種類の仕様がありましたが、このうち JT65 は、A、B、C に区分され、JT65A は HF/50MHz 用、JT65B は 144MHz と 432MHz 用、JT65C は 1296MHz 用に使用されるようになりました。

この中で、2007 年頃より HF 帯でも JT65 が広く使われるようになっていますが、2017 年 7 月に改良版の新モード FT8 が公開され、瞬く間に主要モードに躍り出ました。

開発者である K9AN・Steven Franke と K1JT・Joseph Taylor 両氏の名前を冠した、Franke Taylor design 8FSK modulation の頭文字から FT8 と名付けられています。

ちなみに、Taylor 博士は、ティーンエイジャーの頃にアマチュア無線免許を取得し、それがきっかけとなって電波天文学に興味を持つようになったそうで、2010 年 4 月にはアレシボ天文台の電波望遠鏡を用いて世界中のアマチュア無線局と、音声、モールス通信、デジタル通信による月面反射通信の運用を行ったことが特筆されるとされている。

JT65 が JA で、一般 QSO で運用され始めた当初は、スケジュール QSO からスタートし、そのための掲示板があった、私も新しもの好きで飛びついたが、何とか、タヌキワッチができれば卒業してしまった、多分、今より取り組むのが難しかったので、こんなものかとタヌキワッチできた時点で達成感が味わえたからでしょう。

TWO-FORTY 誌第 59 号 (2004.07)に WSJT という記事を書いています、良くわからないながら、取り組んでみるという内容ですが、それから 10 数年後の今、花形モード?となった FT8 の隆盛は、当時思いもしなかった。

紙面に余りが出たので、もう一つ、新しもの好きで飛びついて、苦労した APRS にまつわる話を書きます、設定に苦労したのでは無く、モバイルからの運用もやりたいと、通称 TT3 と言われる、「APRS 位置情報発信専用パケット通信モデム」と、これとセットで使う GPS を、メーカーサイトから直接購入するのに苦労したということです。

英語が達者な人から見れば、何でもない話ですが、英語が不得意な私にとっては、とんでもないことでした、注文品が無く代替品でどうかというのが結論ですが、そのようなメールが届いていたのに見落として、Paypal で支払いを済ませているのに、注文品が届かず、慌ててその対応に苦労したのです。

その辺のことは、CQ 誌第 69 号(平成 19 年 12 月発行)に、「Wの通販サイト利用初体験」という記事にして掲載させてもらいましたが、要は、英文メールでやり取りしなければいけなかったと言うだけの話です、最終的には品物は無事届き、モバイルからのビーコニング(位置情報発信)ができるようになりました。(しかし、これも今は卒業 hi)